

10月給食だより



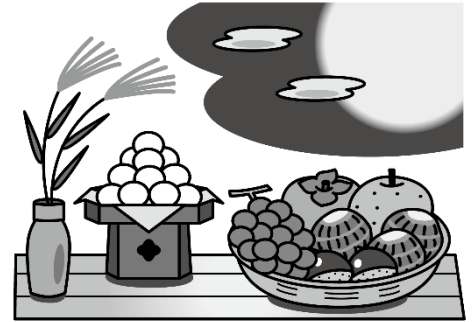
秋を楽しむ🐰お月見の行事

ようやく朝晩の暑さが和らぎ、だんだんと秋の気配を感じるようになってきました。

昔から、秋は1年のうちで最も月がきれいに見える季節とされ、昔の暦（旧暦）で秋の真ん中にあたる8月15日の十五夜の月を「中秋の名月」と呼んで、月を観賞する“お月見”の行事が行われてきました。

ちょうどこの時期に里いもが収穫されることから、里いもをお供えしたり、「きぬかつぎ」などの里いも料理を食べたりする風習もあり、別名で「芋名月」ともいいます。

また、十五夜からひと月ほど後の十三夜でも“お月見”をする風習があり、両方合わせて“お月見”をすると縁起が良いとされています。



2025年の十五夜は 10月6日、
十三夜は 11月2日です。

十五夜の行事食。

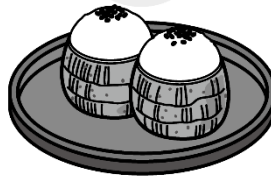


月見団子



こめ つく だんご
米から作る団子。
まんげつ み た まる
満月に見立てた丸
かたち さと
い形のほか、里い
も かたち
もの形などもあり、
ちいさ ちが
地域によって違い
があります。

きぬかつぎ



さと かわつ
里いもを皮付きでゆでたり
む へいあんじ
蒸したりしたもの。平安時
だい じよせい ふくそう
代の女性の服装
にちなんで、
こう呼ばれ
ます。



図書コラボ給食について

「どろぼうねこのおやぶんさん」 ぶん：小松 申尚 え：かのう かりん

10月17日（金）の「さんまのかば焼き」から「どろぼうねこのおやぶんさん」の本の紹介です。

ある町の商店街をなわばりにしている一匹の“ねこ”がいます。この“ねこ”は商店街の魚屋さんと顔なじみです。

ある時、電気屋さんのテレビから不思議な天気予報が流れてきます。「この商店街だけ“晴れのちさんま、ところによりさば”」。たくさん魚が降ってきては困ってしまう魚屋さんは“ねこ”に助けを求めました。

実はこの“ねこ”は「どろぼうねこの親分」なのです。町中から仲間の猫を集めました。

さあ、この商店街はいったいどうなったのでしょうか？！

この本は図書室にあります。ぜひ読んでみてください。

